

事務事業名	誕生の祝交付事業				担当	市民生活部 市民課 窓口係	
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			増補版施策名		
施策名	2	子育て支援の充実			☐ 実施計画上の主要事業		
関連個別計画	真岡市子ども・子育て支援事業計画				事業期間	☐ 単年度のみ	
法令根拠						☒ 単年度繰返（開始年度 昭和50 年度～）	
予算科目	1.一般会計	2.総務費	3.戸籍住民基本台帳費	1.戸籍住民基本台帳費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	昭和50年7月から本市で生まれた赤ちゃんへの市からのお祝いの記念品として、出生届時に贈呈している。本市においては、子育て支援の充実が重点施策の一つとされており、その一環として、赤ちゃんの誕生を祝い健やかな成長を願うため本事業をおこなっている。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 31年度実績 出生届受付時に、赤ちゃん誕生のお祝いとして、「お祝いのことば」のメッセージを添えて「絵本」（1児につき1冊、3つの絵本から1冊を選択してもらう）を贈呈している。平成31年度に配布する絵本の見直しを実施し、3冊のうち2冊を更新した。 2年度計画 平成31年度と同様に贈呈する。				⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
				名称		単位	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(見込)
				ア	： 配付冊数	冊	652	616	618	527	670
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等 出生児				⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
				名称		単位	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(見込)
				ア	： 出生数	人	652	616	618	527	670
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 子どもの誕生をお祝いする。				⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
				名称		単位	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(見込)
				ア	： 祝ってもらえたと思えた親の割合	%	100	100	100	100	100
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 子どもの健やかな成長を願う。				⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
				名称		単位	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(見込)
				ア	： 健やかに子どもが育っていると思える親の割合	%	100	100	100	100	100
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
(2) 総事業費の推移											
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円							
			一般財源	千円	496	490	490	471	503		
			事業費計（A）	千円	496	490	490	471	503		
	人件費		正規職員従事人数	人	9	9	7	8	8		
			延べ業務時間	時間	12	12	12	89	99		
			人件費計（B）	千円	50	50	50	360	400		
			トータルコスト(A)+(B)	千円	546	540	540	831	903		
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等											
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？		昭和50年7月から、赤ちゃんの誕生を祝い市長からのメッセージを、直接誕生証書という形で手渡したのが始まりである。全国に先がけてスタートした制度であり、当初行政誌にも取り上げられ、問い合わせが相当数あった。									
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？		平成17年2月、「誕生証書」から「絵本」に切り替えた。 令和元年度から、配布物が一式入るいちごデザインの紙袋に入れて配布し、シビック・プライドの醸成を図っている。									
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？		写真が貼れメッセージが記入できるような記念証の配布をしてはどうか(H30.2月議会)									

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 児童虐待や育児放棄など、乳幼児をめぐる社会問題が大きくなってきている中で、健やかな子どもの成長を願うとともに、青少年の健全育成や子育て支援の充実に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 青少年の健全育成や子育て支援の充実を図っている。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある すべての出生児を対象としており妥当である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある すべての出生児を対象としている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 健やかな子どもの成長を願うとともに、青少年の健全育成や子育て支援の充実を図っている。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない 出生児を祝う事業は、他にはない。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の事業費である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 出生届時に配布するため、必要最小限の人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☐ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																								